

西川國臣

西川国臣

にしかわ・くにおみ

にしかわ・くにおみ

松永町長(第2代)

経歴

生:安政5年(1858年)3月、三原生まれ

没:昭和13年(1938年)1月18日、享年81歳、承天寺に葬る

—	—	三原藩校明善堂において経史を修める
—	—	長谷川桜南に漢学を学ぶ
明治10年(1877年)5月10日	20歳	広島県師範学校福山分校入学
明治11年(1878年)4月2日	21歳	広島師範学校福山分校を卒業
—	—	御調、豊田、世羅各郡小学校訓導を歴任
明治14年(1881年)	24歳	松永小学校に転じる
明治15年(1882年)	25歳	松永小学校校長
明治16年(1883年)	26歳	松永に分家
明治21年(1888年)6月1日	31歳	新設の松永高等小学校長
明治33年(1900年)	43歳	芦品郡視学
明治42年(1909年)8月～ 大正10年(1921年)8月	52～ 64歳	松永町長(第2代)に就任[3期12年]
大正10年(1921年)4月	64歳	沼隈郡立松永実科高等女学校の新設
大正10年(1921年)8月～	64歳～	余世を得意の通俗講演、お伽噺、和歌、書道を持って全国を行脚

生い立ちと学業、業績

安政5年(1858年)3月、浅野藩士西川岸右衛門(禄270石)の末子として三原に生まれた。幼名を国次といい、のち国臣と改めた。諱は讓、春峰又は守拙堂と号した。

幼時は三原藩校明善堂に入って経史を修め、儒者長谷川桜南に師事して漢学を学んだ。明治10年(1877年)5月10日、20歳で「広島県師範学校分校(福山)」に入学した。この師範学校は、もとの藩校誠之館に開かれ、藩校誠之館からの教師も多かった。同期生に藤井曹太郎氏があり、ともに人物成績優秀で、寄宿舎の室長に任ぜられている。修業1年にして明治1

1年(1878年、21歳)4月2日同校を卒業した。

教育家

以後、御調・豊田・世羅各郡の小学校訓導を歴任、明治14年(1881年、24歳)松永小学校に転じ、翌明治15年(1882年、25歳)同校校長に任ぜられた。明治21年(1888年)年5月、沼隈郡全町村を学区として松永高等小学校が設置されると、同年6月1日付けをもって初代校長にあげられた(31歳)。その後は、明治33年(1900年、43歳)芦品郡視学に転じて教育行政に貢献している。

松永へ定住

明治16年(1883年)26歳のとき、松永に分家した。風貌魅偉、風姿颯爽、弁舌また流暢にして、名声忽ちにして郡の内外に喧伝せられた。

松永町長

明治42年(1909年)、52歳で松永町長(第2代)に就任した。その後3回累選され、大正10年(1921年)8月に64才で引退するまでの12年間、町政の刷新と自治の振興につとめ、とくに沼隈郡立松永実科高等女学校の新設に奔走した。その経緯を見ると、松永町ほか7カ町村組合立松永高等小学校が、大正10年(1921年)3月31日限り解散されることになったため、学校組合は、女学校設置を条件に敷地・校舎を郡へ無償提供し、松永町はこの校舎に修繕するとともに所要の器具を調達して郡に提供した。その結果、大正10年(1921年)3月24日、郡立松永実科高等女学校の設立が認可され、4月から開校された(村田露月編、松永町史)。

余世

引退後は、余世を得意の通俗講演、お伽噺、和歌、書道を持って全国行脚し、その足跡は南は鹿児島県より北は北海道、西は満鮮に及び詠草も数千首に達している。晩年行脚中は常に記念帳を携えて著名の神社仏閣に賽し、名勝史蹟を訪い、知名の士に揮毫を求めた。その数72巻に達していた。

和歌は山田淳子刀自に学び、当意即妙の作風は自ずから一家をなし、永く中国芸備両新聞歌壇の選者であった。

書道は奔放雄揮これまた一家をなし、他人の模倣を許さず、遺墨が所々に残っている。また、考古学にも造詣深く郷土史家でもあった。さらには古銭古瓦出土品などの蒐集家でもあった。

昭和12年(1937年)夏、阿蘇登山を終え、熊本で発病して帰松、昭和13年(1938年)1月18日歿、享年81歳。承天寺に葬る。

辞世の歌は、「借りもなく貸しもなければうつし世に思いのこしはつゆほどもなし」。

著書に『深津、安那、沼隈郡孝義録』、『習字帖』、『備後六郡内碑文集』などがある。(出典1・2)

誠之館所蔵品

管理No.	著者	名称	制作/発行	日付
01392	西川國臣 編纂	『尋常小学 新習字帖 卷八』	三木半兵衛	明治27年

出典1:『誠之館百三十年史(上巻)』、287頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典2:『備後先覚者名鑑(郷土を創った人々)』、16頁、村田露月・式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和35年6月

2004年12月6日更新●2005年6月2日更新:氏名・本文●2006年3月31日更新:タイトル●2007年9月19日更新:誠之館所蔵品・関連情報●2008年2月15日更新:経歴・本文・関連情報削除●